

突厥資其財力、雄北荒、大業中處羅可汗攻脅鐵勒部、哀責其財、既又恐其怨、則集渠豪數百悉阮之、韋紇乃并僕骨・同羅・拔野古叛去、自爲俟斤、稱回紇、回紇姓藥羅葛氏、居薛延陀北娑陵水上、

と見ゆ、此等兩書の記載の中、前者は「無君長」より以下「盡殺之」に至る迄、全く隋書鐵勒傳の抄出にして、其の間僅かに鐵勒の文字を特勒と改めたるに過ぎず、又末段「有僕骨・同羅・廻紇・拔野古・覆羅、步（並歟）號俟斤」と記せるものも、等しく隋書鐵勒傳中より取り來れるものにして、只だ隋書に韋紇と記せるを廻紇と改めたるに過ぎず、されば要するに茲に抄出せる舊唐書の記事は、鐵勒と回鶻とが全く同一のものたるに於て初めて回鶻傳として注意を拂はるべきものなりとす、然れども回鶻は原と鐵勒の一部にして、決して之と同一なるものに非ることは、ふかく説く迄もなきことなれば、此の記事は當面の目的に於ては殆んど何等の價值を有するものに非ず、歐洲の學者中鐵勒と回鶻とを同一視するものあるは、此の記事に誤られたるに過ぎず<sup>①</sup>。

新唐書の記する所によれば、回鶻は高車或は鐵勒と稱するものゝ一部なる袁紇即ち或は烏護といひ、或は烏紇といひ、隋に至りて韋紇といへるものゝ後なりとす、袁紇なる名は既に魏書高車傳に「高車……其先匈奴也、其種有狄氏・袁紇氏」と見え、又同書道武帝本紀登國五年春三月の條に「帝西征次鹿渾海、襲高車袁紇部、大破之」と記され、烏護及び韋紇の名は隋書鐵勒傳に其の中の一部族として記さる、されば之によれば唐代に廻紇（或は回紇）又は回鶻（或は廻鶻）と稱するものは、南北朝及び隋代に於て、鐵勒種中の一部として既に此等の名を以て支那に知られたるものなりとす、廻紇(Hui-ho)・回鶻(Hui-hu)等の文字がトルコ族の一部なる Uigur の名を寫せるものなることは、少しも疑無きことなれども、然も此の部は別にまた九姓なる語を冠し、九姓回鶻の名によりて屢々史